

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○「話すこと・聞くこと」、「読むこと」に関する問題の正答率は、県平均・全国平均並みである。 ●文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。 ●記述で答える問題の正答率が他の問題形式に比べかなり低く なっており、無回答率も高い。授業で「書くこと」の学習をさらに取り 入れる必要がある。	・授業の中で、語句調べをしたり、漢字テストの方法を工夫したりすること を通して、生徒の漢字の知識及び語彙力を高める。 ・授業や学活等において、短作文等を書く時間を設け、書くことの抵抗感を 低減する。定期テストなどにも作文問題を取り入れ、授業で培った力を発 揮する機会を設ける。 ・生徒同士で考えを共有する場を設け、表現力を高めたり、自分の学びに つなげたりする。
数学	○ 知識・技能の観点に関する問題に対しては島根県及び全国に比 べると正答率が高かった。 ●学習指導要領の領域でみると、島根県の結果では上回っている が、全国に比べるとすべて下回っている。 ●説明や証明などの記述を要する問題、特に数の性質での正答率 が低い。	・授業の中で、自分で考えて解くという時間を増やしていき自分で考 えさせる力をつける。 ・問題を解くだけで終わらず、他の生徒に説明し理解を深めようとす る時間の確保を行う。 ・定期的な確認テストなどを行い、数学的な能力の底上げをする。
理科	○ 学力の幅は比較的小さく、一定の基礎知識や理解は定着している。 ○ 観察・実験に取り組む姿勢は見られ、基礎的な内容では一定の成果が出ている。 ● 平均IRTスコアは475点で、県平均(494点)、全国平均(503点)を下回っている。 ● 観察や実験結果をもとに考察する問題、複数の情報を組み合わせて答える問題で 正答率が低い。 ● 記述式問題での正答率が他の問題形式に比べて低く、無回答率も高い。科学的に 説明する力の育成が課題である。	・観察・実験活動を充実させ、得られた事実から筋道を立てて考察する力を育成す る。 ・複数の資料やデータを比較、統合して解答を導く学習活動を取り入れる。 ・記述式問題への取組を授業の中で継続的に行い、表現力と記述力を高める。 ・生徒同士で考えを共有、説明する場を設け、科学的に説明する力を伸ばす。 ・基礎的な知識の確認を繰り返し行い、全体の学力の底上げを図る。

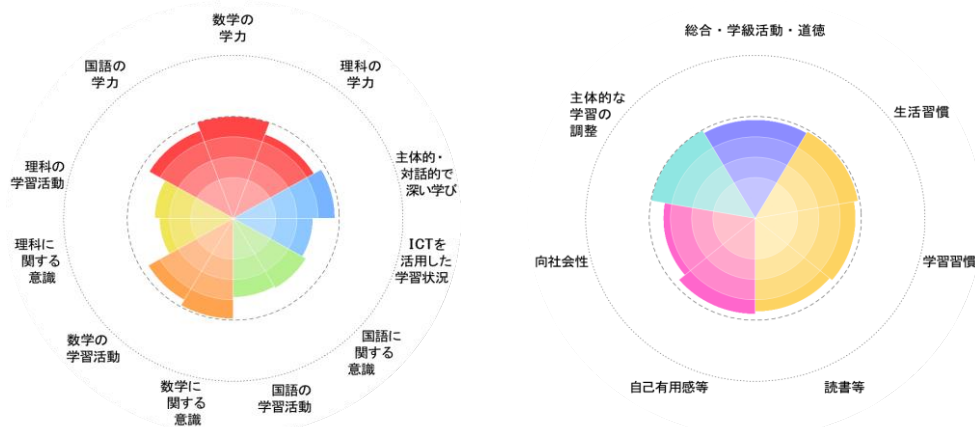
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質 問 紙	○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、 調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「わからないこと があったときに、自分で学び方を考え工夫できている」という意識が県や全 国と比較して高い。 ●ICT機器の活用ができていてと感じている生徒の割合が低く、授業・学習 におけるICT活用が課題である。使用頻度、ICT活用技術共に低い回答結 果となっている。	・教員が夏季のICT活用研修等で学んだことを積極的に活用し、考 えを共有する、発表・表現する、自分のペースや学び方に合わせて 学習を進めるなど、一人一台端末の継続的かつ効果的な活用を促 進する。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校 全体	・全教員で問題を解く機会を設け、ねらいや意図を読み取ったり、分析結果を共有したりすることで、学校全体としての授業改善につなげていく。
----------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

159

名

※欠席等により調査
によって受検者数が
異なる場合は、最少
の受検者数をもって
表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

